

沖縄県の障がい者スポーツにおける県外派遣費調査と考察（報告）

1 沖縄県の障がい者手帳の交付人数（令和2年度末時点）

障害種別	令和2年度交付人数	前調査（令和元年）からの増減
身体障がい	68,404人	-1,603人（-2.3%）
知的障がい	16,528人	-483人（-2.8%）
精神障がい	22,302人	+677人（+3.1%）

※ 沖縄県の総人口は、約146万7000人（令和2年度末時点）

最新のデータが、令和2年度になるが、その2年前からの推移を見ても、三障がい（身体・知的・精神）それぞれで、微増もしくは微減になっており、総じて人数に関しては横ばいと言える。

2 沖縄県の障がい者スポーツの実施率（令和3年度調査）

沖縄大学人文学部福祉文化学科 准教授 中山健二郎氏の協力を得て、沖縄県における障がい者のスポーツ実施状況、課題の把握などを行った調査研究からデータの引用をさせて頂いた。2022年1月～3月にかけて700部のアンケートを配布し、有効回答数は232部（回収率33.1%）であった。

I 回答者の属性（性別・年代・障がい種別）

表1 性別 n=232

性別	回答数	比率 (%)
男性	148	63.8
女性	82	35.3
その他	2	0.9

表2 年代 n=232

年代	回答数	比率 (%)
19歳以下	2	0.9
20～29歳	17	7.3
30～39歳	33	14.2
40～49歳	39	16.8
50～59歳	47	20.3
60～69歳	61	26.3
70歳以上	32	13.8
未回答	1	0.4

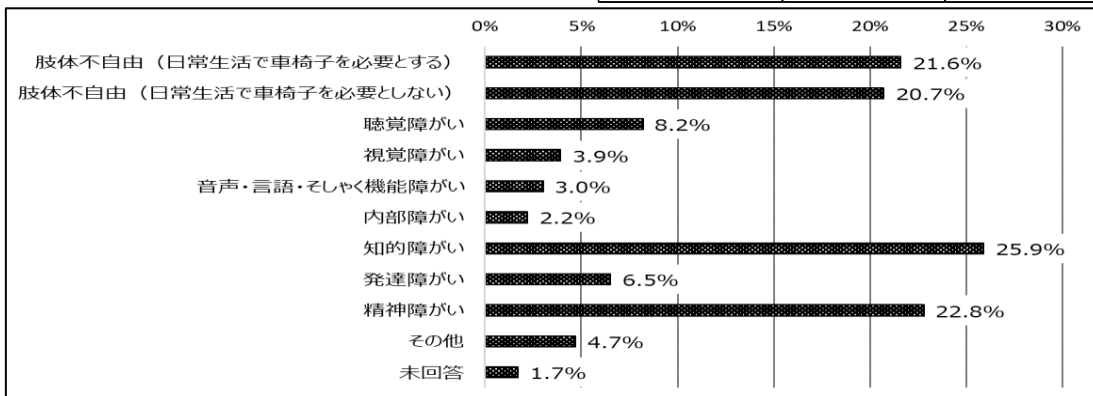


図1 障がいの種類

II スポーツ実施頻度（全体・性別・障がい種別）

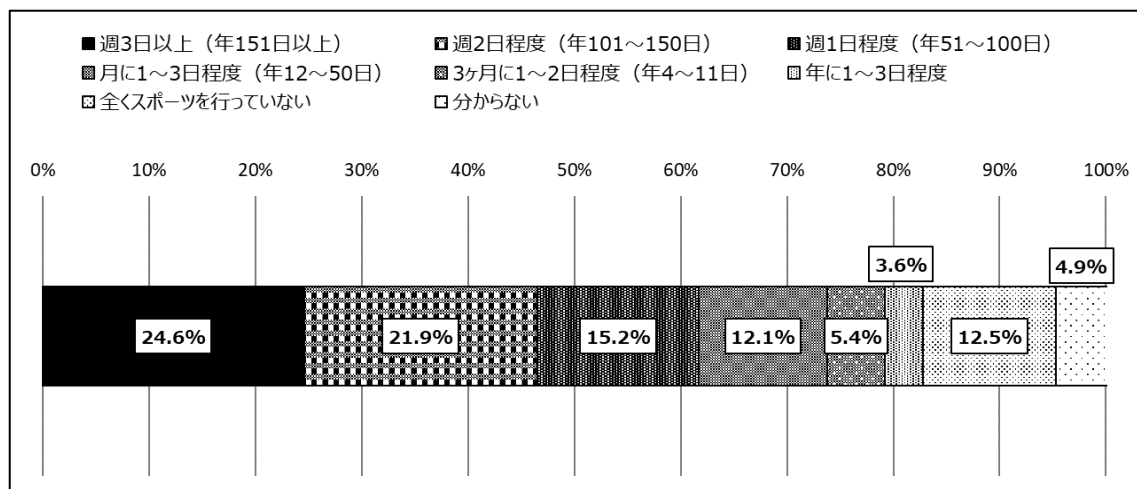


図2 スポーツ実施頻度（全体）

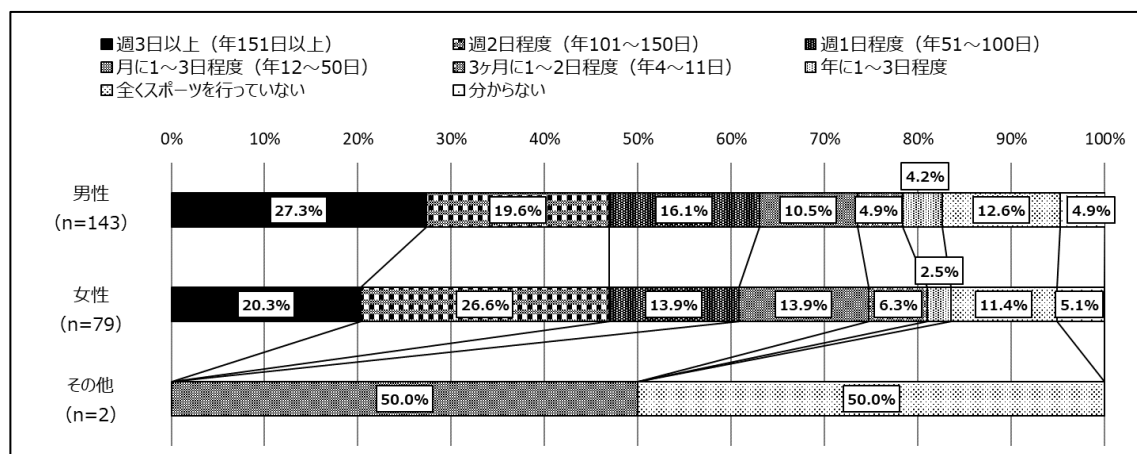


図3 スポーツ実施頻度（性別）

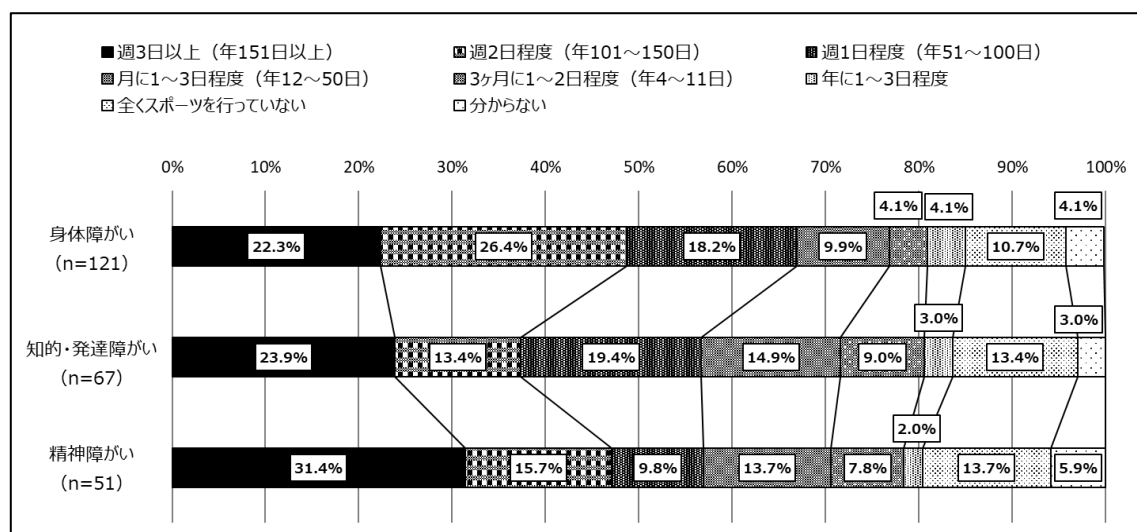


図4 スポーツ実施頻度（障がい種別）

スポーツ活動状況を検証する為の一般的な指標とされる「週1以上スポーツ実施率」は、61.7%であった。この数値は、2021年度の全国調査値（31.1%）、および、スポーツ庁が策定した「第3期スポーツ基本計画」（2022～2026）で提示されている障がい者（成人）の目標値（40%以上）を上回るものである。

Ⅲ スポーツ活動に関する意識（全体・障がい種別）

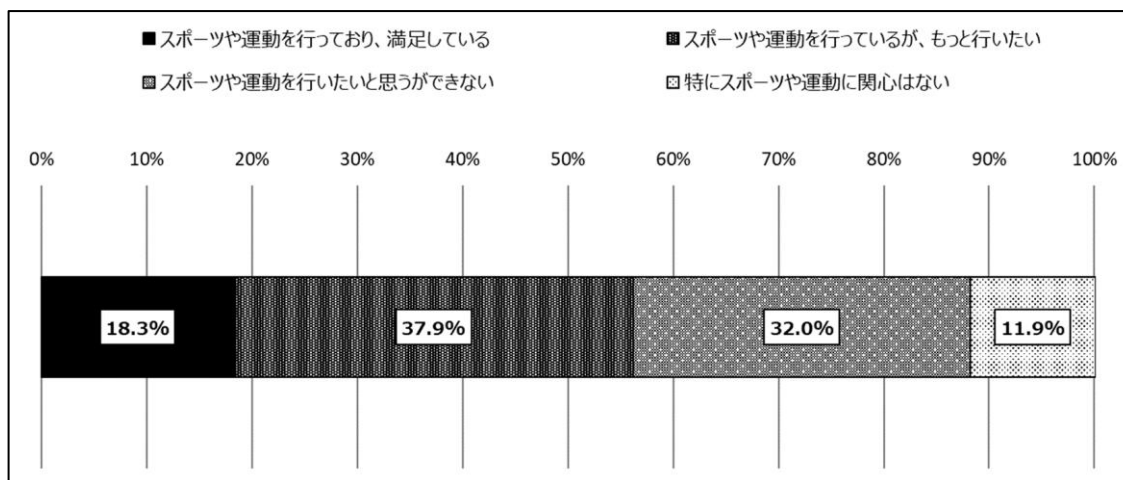


図5 スポーツ活動に関する意識(全体)

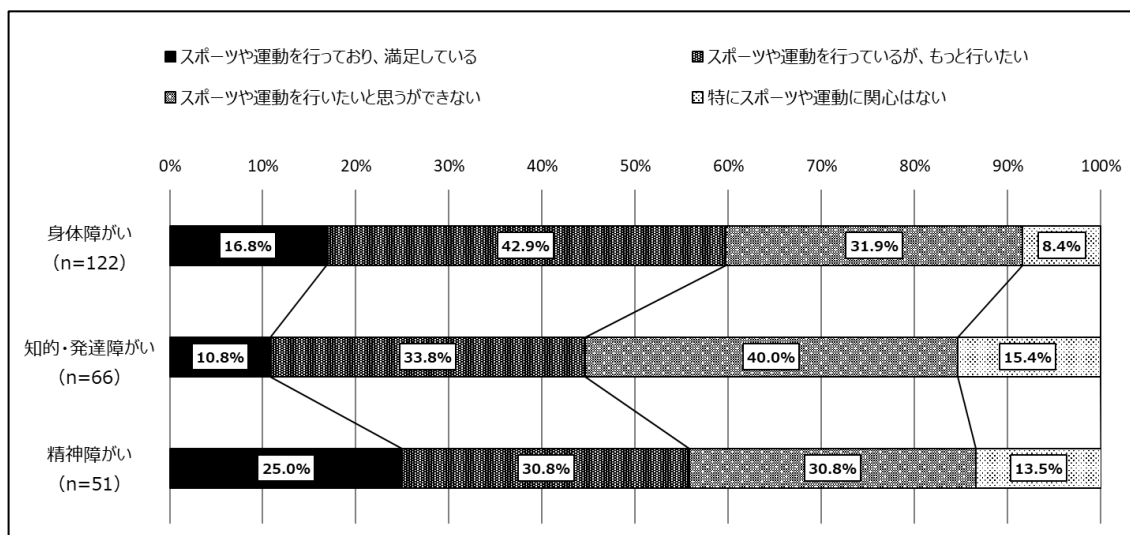


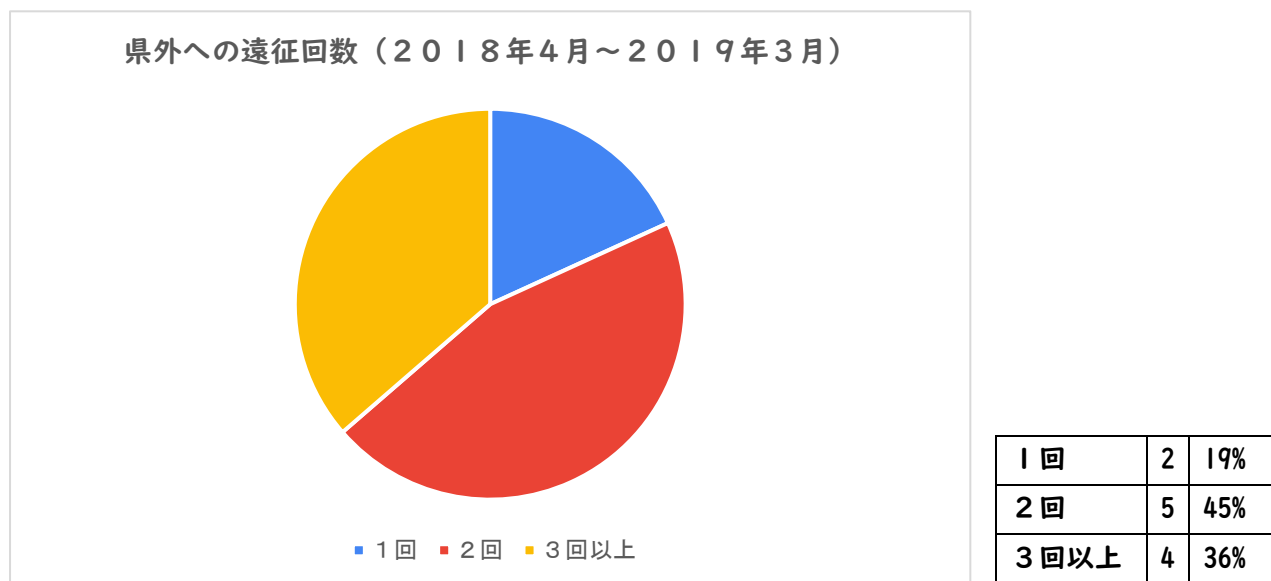
図6 スポーツ活動に関する意識（障がい種別）

「スポーツや運動を行っており、満足している」者の割合（18.3%）に対して、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」者の割合（37.9%）が2倍以上であった。また、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」者が全体の3割程度（32.0%）みられた。スポーツ活動欲求の高さ、および、県内におけるさらなる障がい者スポーツ推進施策の重要性が示唆されている。

3 沖縄県の障がい者スポーツにおける県外派遣費調査

県内在住の障がい者スポーツ団体や個人に対して、郵送ならびに、メールなどで県外派遣費に対するアンケート調査の依頼を行った。2023年2月～3月にかけて、14団体、個人10名に対して配布し、7団体、4名から回答を得た。障がい当事者からの回答に対しては、団体スタッフや保護者などの代理回答も可としている。

問1 団体もしくは個人で、県外派遣及び離島からの派遣大会や合宿（地域トレセン・ナショナルトレセンなど）が年間何回ほどありますか？



<考察>

年間で、複数回にわたって県外大会に参加する割合が80%を超え、3回以上の参加も全体の約36%を占めている。

問2 派遣ありの場合、主要な大会の名称と開催県をご記載下さい

【車いすバスケ】

全国障害者スポーツ大会（九州予選、本大会）

JPSA J-STAR プロジェクト（主に九州）

九州朝日車いすバスケットボール大会 @九州持ち回り

車いすバスケットボール 2次予選 西日本大会 @西日本持ち回り

全国車いすバスケットボール大会（天皇杯） 本大会 @東京

車いすバスケットボール選抜大会 @群馬

【知的ボウリング】

全国障がい者スポーツ大会

U22 福岡ジュニアトーナメント（福岡県）

【車いすソフトボール】

西日本車椅子ソフトボール大会(大阪)
ライオンズカップ(埼玉)
日本車椅子ソフトボール選手権(北海道)
車椅子ソフトボール東大阪花園大会(大阪)
日本代表選手選考会(大阪)

【知的サッカー】

地域トレセン対抗戦(大阪府)
九州トレセン(九州各地)

【パラ陸上】

日本パラ陸上競技選手権大会
ジャパンパラ陸上競技大会(群馬県)
大分国際車いすマラソン大会(大分県)
東京マラソン(東京都) など

【全スポ】

全国障害者スポーツ大会
全国障害者スポーツ大会九州予選会

【知的陸上】

日本 ID 陸上競技選手権大会(岐阜県)
ジャパンパラ陸上競技大会(群馬県)

【知的ソフトボール】

FID ジャパン・チャンピオンシップソフトボール大会(神奈川県)

【知的卓球】

FID ジャパンチャンピオンシップ卓球大会(神奈川県)
FID ジャパンチャンピオンリーグ卓球大会(神奈川県)
FID ジャパン・年代別オープン卓球大会(岐阜県)
知的障がい者卓球九州大会(福岡県)

【知的バスケ】

FID 日本女子 A・B 代表チーム強化合宿

<考察>

競技、団体の運営方針によって変わるが、毎年開催場所が固定されている大会と、各地を持ち回りで開催されている大会とに分けられる。割合としては、後者が多い。

問3 派遣ありの場合、派遣費は、公費（全額・〇割補助）・自費・スポンサードなどのどちらで賄われていますか？

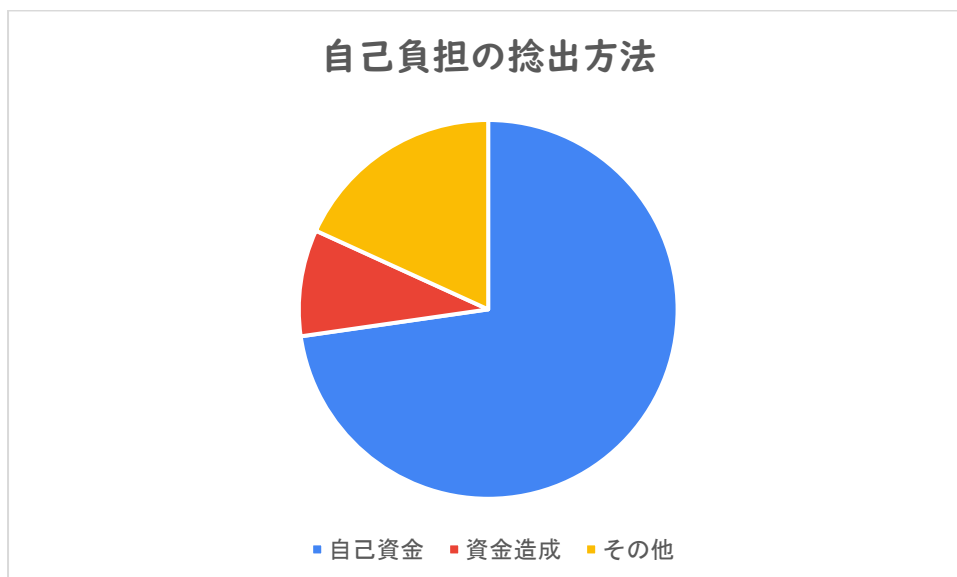


公費全額補助	5	28%
補助あり	4	22%
自己負担	8	45%
その他	1	5%

<考察>

公費全額補助の場合は、県の事業として行われているものがほとんど。補助ありの場合は競技団体などからの少額の補助で、開催場所などに関わらず1万円程度の金額。自己負担での参加も全体の45%を占めており高い割合である。

問4 自費支出が必要な場合、それをどのような形で捻出していますか？具体的に記入ください。

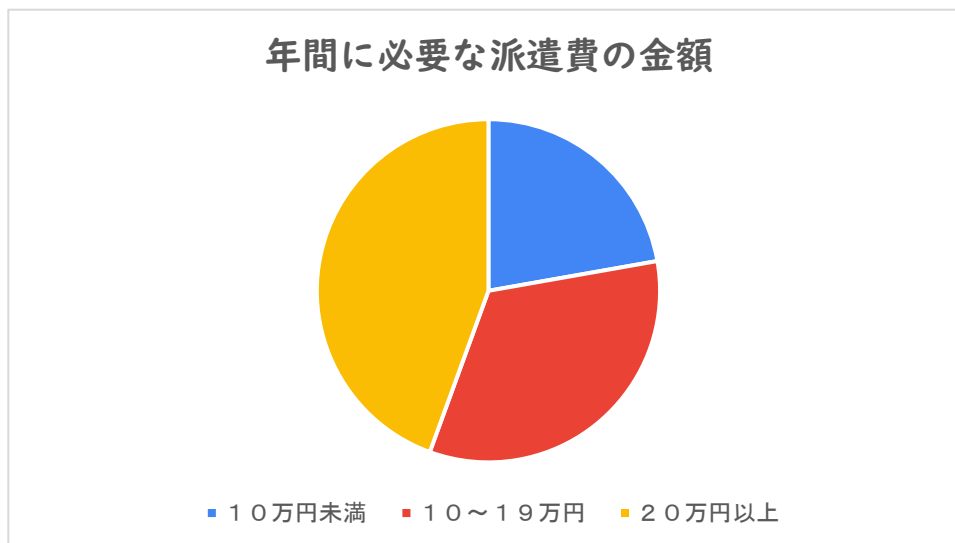


自己資金	8	73%
資金造成	1	9%
その他	2	18%

<考察>

自費での対応をしている中では、圧倒的に自己資金からの捻出が多いが、販売などを行っての資金造成や、団体の会費や事業収入からの補填もわずかながらある。

問5 自費支出が必要な場合、年間で1人あたりどれくらいの費用（金額）が必要ですか？

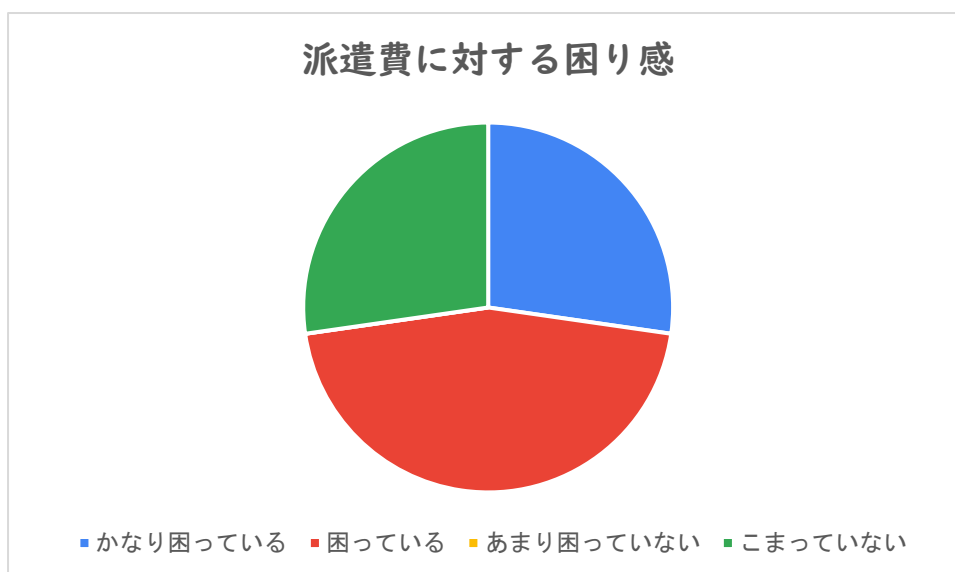


10万円未満	2	22%
10～19万円	3	33%
20万円以上	4	45%

<考察>

県外派遣の回数にリンクしていると考えられるが、複数回の派遣になると、年間10万円以上の費用が必要で、その割合も78%と高い割合となっている。

問6 県外・島外派遣費の件で、困っている感覚がありますか？



かなり困っている	3	27%
困っている	5	46%
あまり困っていない	0	0%
こまっていない	3	27%

<考察>

困り感に関しては、派遣費に対して困り感を感じていない方々も一定数存在し、派遣費に対して問題意識を感じていない層もいることが伺える。

問7 問6の理由を具体的に記入をお願いします。

【車いすバスケット】

自己出費が多く困っている。出費を抑えられるなら、その分を他のチームのサポートなどで貢献したい

【車いすソフトボール】

特に学生会員にとって負担が大きい。チームとして若い力が重要だが、費用負担が理由で大会参加人数を揃えることが難しく、出場権のある大会も辞退しなければならない現状がある。

【知的サッカー】

選手、スタッフの負担が大きく継続して活動できるか不安

【パラ陸上】

未成年選手の県外大会参加時、家庭への経済的負担が大きく、大会出場を減少させることがある。

【知的陸上】

自費で飛行機代などを捻出しないといけない為

【知的ソフトボール】

飛行機代や宿泊費用などを自費で支払わないといけない為

【知的卓球】

大会の回数も多い中、場所によって交通費などが高くなる為

【知的バスケット】

強化合宿に選ばれている選手は兄弟が多く、生活費の中から参加費の捻出に毎年苦労している。

<考察>

特に若い年代（学生）に関して、派遣費の負担が重くのしかかっていることが伺える。時期や場所によって、派遣費の金額が増減するため、生活費からの捻出などもあり、安心して参加できる要素が、それによっても増減しているように見える。

問8 派遣費のことで、今後行って欲しい支援の内容があれば具体的に記入をお願いします。

【車いすバスケット】

各競技団体・チームへの派遣費の支援

障がい者スポーツトレーナーの派遣要請、費用支援

【車いすソフトボール】

国内大会の旅費・宿泊費の補助

遠征先でのレンタカー代の補助(車椅子運搬のため)

【知的サッカー】

派遣費の補助・選手の練習環境を改善してほしい、試合も増やしたい

【パラ陸上】

選手及び帯同者の交通費に対する支援があると嬉しい。

【全スポ】

公費補助の対象とならない大会等に対し、交通費等の支援があると助かります。

【知的バスケ】

全額支援してほしい。

<考察>

競技団体を中心に、派遣費の支援に対する要望が強い反面、個人での参加や、民間クラブの参加に関しては、さほど強い要望を感じない。その他、競技特性によって、負担する費用の内容が異なるため、団体によっての要望の特徴が多様に出てきている。

問9 派遣費のことで、意見やコメントがあれば記入をお願いします。

【車いすバスケ】

およそ10年間、パラスポーツのサポーターとして活動していますが、派遣費用に関する制度で変化は感じられていません。以前は、トレーナーとして3チームに帯同していましたが、自己負担が多く現在は1チームのサポートが限界です。

派遣費・自己負担の問題が解消されれば、障がい者スポーツトレーナーとしてサポートの幅を広げたいとは常々考えています。

【車いすソフトボール】

大会参加をモチベーションに競技をしている選手が多いため、大会派遣費用の補助は県内のスポーツ推進に直結すると思う。特に、車椅子競技の場合、内地のチームはすべて車移動だが沖縄からだと必ず飛行機とレンタカーになるため、他県より負担が大きい。派遣費用補助の仕組みができると大変ありがたい。

【知的サッカー】

なかなか厳しい所もありますが、多くの選手、スタッフにチャンスが広がってほしいと思います！
選手の分は全額負担してもらいたい

<全体の考察>

障がい者のスポーツ実施率が全国平均よりも高い状況、さらに意識的にも高い状況を土台として、競技団体や個人でアスリート志向の活動を行っている方も多いことが見受けられる。特に、民間クラブや個人での活動を行っている方は、今回の調査に入っていない（把握できていない）方も、ある程度いるものと思われる。

年間で複数回の県外派遣（遠征）を行う団体や個人が多く、それにともなって、費用額も多くなる傾向が見られた。年間で50万円もかかっている場合もあり、それを自己負担で行っていることは、単純に負担の大きさを感じさせる。

今回の調査では、主に3つのグループに分かれていて、それぞれに状況が違うことが分かった。

- ① 県などの事業で全額公費負担で派遣されている
- ② 民間クラブや個人で、自費負担（特に自己資金）で派遣（大会参加）されている
- ③ トップアスリートを中心にスポンサーを受けたり、招待（補助）を受けて派遣されている

①の場合、基本的に負担がないので、安心して参加できているが、将来に渡って事業が継続されるかという不安も潜在的に存在し、団体や個人でも困り感はないまでも、不安感がある。

②の場合、選手自身で費用を負担することが、ある程度当たり前の感覚としてあり、困り感は低い印象を受ける。将来的にも継続して県外大会に参加していきたいという長期的な考えも持っており、普段から、費用の捻出（貯蓄など）について意識を持っている。ただし、費用の負担が増えていけば、自ずと負担感が増していることも事実で、回数の制限をしながら参加しているアスリートもいることも、アンケートには明確に表れていないが、推測される。

③の場合は、かなり特殊事情なので、今回の派遣費調査の目的には合致しないように思える。トップアスリートになればなるほど、スポンサーを受けられる可能性は上がり、費用負担に関しての考え方は減っている。ただし、アスリートが日々の生活も含めて、真に安心して活動できているかということは別問題かと思われる。

障がい者スポーツとしても、派遣費の課題は大きい。①の場合ですら、将来的な不安が存在し、その他でも、障がい者スポーツという部分で特別なサポート（車移動や支援スタッフ必要性の高さ）が存在することで、費用負担が高額になったり、人間的な確保が必要になったりしている。健常者の派遣費問題とは違った側面もあることから、さらなる研究や支援の検討・構築が必要になってくるものと思われる。